

平川市の給与・定員管理等について

平川市総務部総務課

平川市職員の給与と職員数等の状況についてお知らせします。

公表は国の通知に基づくもので、各数値は平成19年4月1日現在のものです。

1 総括

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

区 分	住民基本台帳人口 (平成18年度末)	歳出額 A	実質収支	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 平成17年度 の人件費率
18年度	35,190人	16,196,612千円	245,969千円	3,448,318千円	21.3%	22.1%

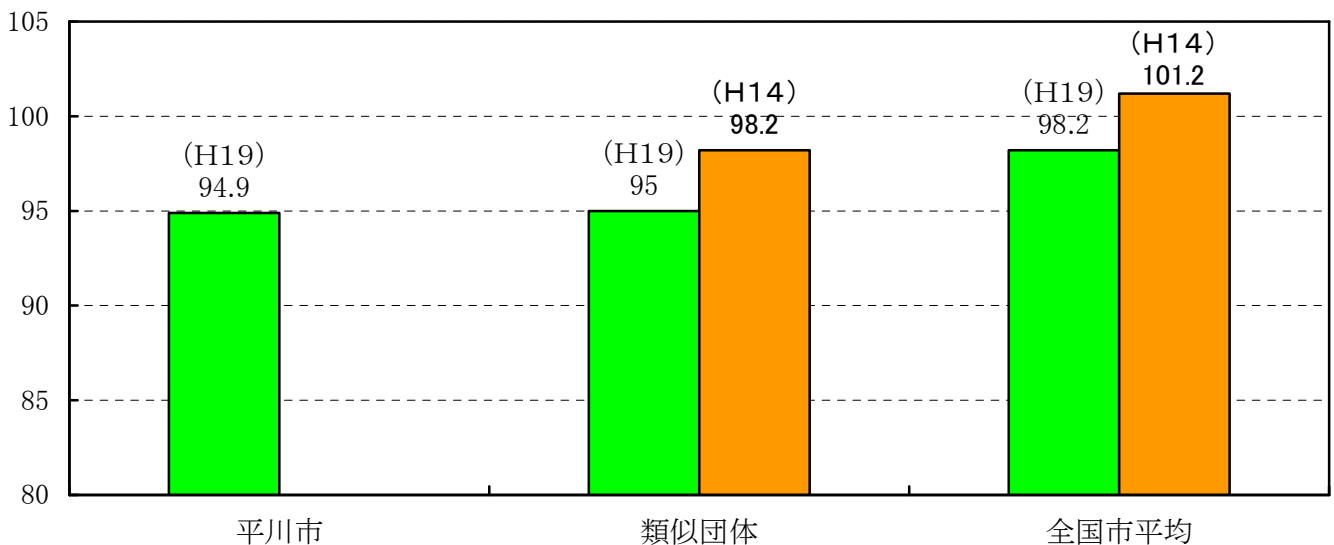
(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり給与費 B/A	(参考) 類似団体（一般市I-0） 平均一人当たり給与費
		給 料	職員手当	期末・ 勤勉手当	計 B		
18年度	人 384	千円 1,484,701	千円 611,800	千円 148,790	千円 2,245,291	千円 5,848	千円 6,002

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。
2 職員数は、平成18年4月1日現在の人数である。

(3) 特記事項

(4) ラスパイレス指数の状況（各年4月1日現在）



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数である。
2 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況（平成19年4月1日現在）

①一般行政職

区分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
平川市	44.7 歳	341,205 円	363,914 円	369,346 円
青森県	44.1 歳	352,500 円	420,493 円	387,826 円
国	40.7 歳	325,724 円	— 円	383,541 円
類似団体	43.1 歳	332,495 円	380,989 円	357,931 円

②技能労務職

区 分	公 務 員					民 間			参 考 A/B
	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国ベース)	対応する民間 の類似職種	平均年齢	平均給与月額 (B)	
平川市	48.8 歳	30 人	315,867 円	336,543 円	341,248 円	—	—	—	—
うち運転員	49.3 歳	10 人	316,130 円	341,349 円	342,060 円	自家用乗用 自動車運転員	49.3 歳	196,800 円	1.74
うち用務員	48.6 歳	16 人	316,350 円	338,038 円	345,229 円	用務員	53.9 歳	227,200 円	1.49
青森県	46.2 歳	589 人	318,900 円	364,077 円	344,585 円	—	—	—	—
国	48.8 歳	5,193 人	287,094 円	—	320,514 円	—	—	—	—
類似団体	47.3 歳	40 人	294,501 円	317,172 円	306,044 円	—	—	—	—

区 分	参 考		
	年収ベース（試算値）の比較		
	公務員 (C)	民間 (D)	C/D
平川市	—	—	—
うち運転員	5,698,406 円	2,554,300 円	2.23
うち用務員	5,651,654 円	3,284,300 円	1.72

※民間データは、賃金構造基本統計調査において公表されているデータを使用している。（平成16年～18年の3ヶ年平均）

※技能労務職の職種と民間の職種等の比較にあたり、年齢、業務内容、雇用形態等の点において完全に一致しているものではない。

※年収ベースの「公務員（C）」及び「民間（D）」のデータは、それぞれ平均給与月額を1.2倍したものに、公務員においては前年度に支給された期末・勤勉手当、民間においては前年度に支給された年間賞与の額を加えた試算値である。

- (注) 1 「平均給料月額」とは、各職種ごとの職員の基本給の平均である。
 2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、調整手当、住居手当、時間外勤務手当などの諸手当の額の合計したものである。このうち、平均給与月額はこれらすべての諸手当込みのものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。また、平均給与月額（国ベース）とは国家公務員の平均給与月額には時間外勤務手当、特殊勤務手当等の手当が含まれていないことから、比較のため国家公務員と同じベースで再計算したものである。

(2) 職員の初任給の状況（平成19年4月1日現在）

区 分		平 川 市	青 森 県	国
一般行政職	大学卒	170,200 円	166,796 円	170,200 円
	高校卒	138,400 円	135,632 円	138,400 円
技能労務職 (技能職・労務職平均)	高校卒	133,550 円	131,320 円	— 円
	中学卒	123,950 円	119,609 円	— 円

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状況（平成19年4月1日現在）

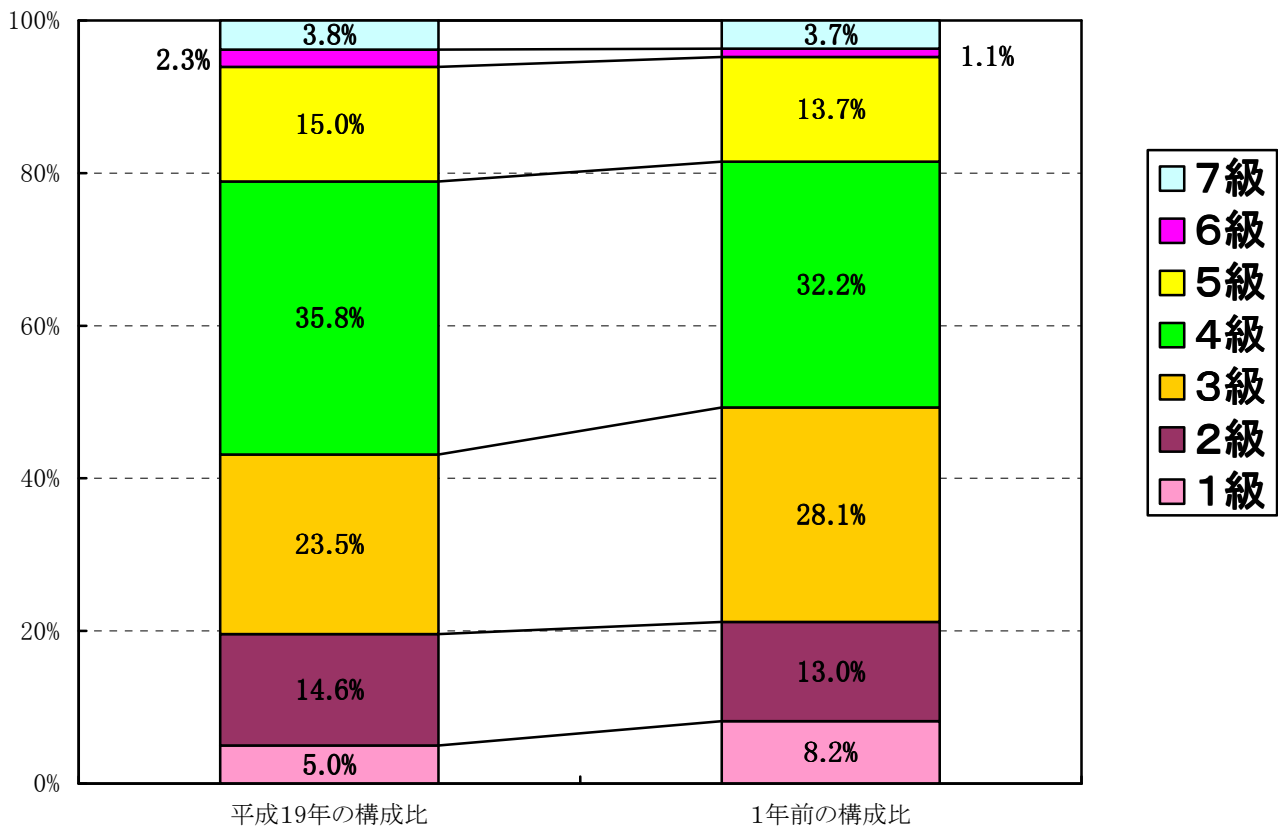
区 分		経験年数10年	経験年数15年	経験年数20年
一般行政職	大学卒	276,861 円	324,950 円	399,529 円
	高校卒	238,257 円	282,489 円	309,500 円
技能労務職	高校卒	— 円	214,400 円	259,433 円

3 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数の状況（平成19年4月1日現在）

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比
7級	部長級	10人	3.8%
6級	総括課長	6人	2.3%
5級	課長・参事	39人	15.0%
4級	課長補佐・主幹・主任主査	93人	35.8%
3級	係長・主査	61人	23.5%
2級	主事・技師	38人	14.6%
1級	主事・技師	13人	5.0%

(注) 1 平川市の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。
 2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



(注) 平成18年に9級制から7級制に変更している。(旧給料表の1級及び2級並びに4級及び5級をそれぞれ統合)

(2) 昇給への勤務成績の反映状況

- ・現在人事評価制度構築中のため、昇給への反映についてもその中で検討している。
- ・昇給については、勤務成績の状況により「良好」より劣るものについてのみ反映している。「良好」より優るものについては、人事評価制度構築にあたり適切に評価できるようになれば実施する予定である。

4 職員の手当の状況

(1) 期末手当・勤勉手当

平 川 市	青 森 県	国
1人当たり平均支給額 (平成18年度) 1,655千円	1人当たり平均支給額 (平成18年度) 1,886千円	—
(平成18年度支給割合) 期末手当 勤勉手当 3.0月分 1.45月分 (1.6)月分 (0.75)月分	(平成18年度支給割合) 期末手当 勤勉手当 3.0月分 1.45月分 (1.6)月分 (0.75)月分	(平成18年度支給割合) 期末手当 勤勉手当 3.0月分 1.45月分 (1.6)月分 (0.75)月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

【参考】勤勉手当への勤務実績の反映状況（一般行政職）

<p>・現在人事評価制度構築中のため、勤勉手当への反映についてもその中で検討している。</p>

(2) 退職手当（平成19年4月1日現在）

平 川 市	国
計算式 基本額 + 調整額 基本額 退職日の基本給月額 × 退職理由別・勤続年数別支給率 (支給率) 自己都合 勸奨・定年 勤続20年 23.50月分 30.55月分 勤続25年 33.50月分 41.34月分 勤続30年 41.50月分 50.70月分 最高限度額 59.28月分 59.28月分 その他の加算措置 (退職時特昇 なし) 調整額 在職中の職責等による貢献度に基づく加算 (0～41,700)円 × 60ヶ月 1人当たり平均支給額 19,126千円	計算式 基本額 + 調整額 基本額 退職日の基本給月額 × 退職理由別・勤続年数別支給率 (支給率) 自己都合 勸奨・定年 勤続20年 23.50月分 30.55月分 勤続25年 33.50月分 41.34月分 勤続30年 41.50月分 50.70月分 最高限度額 59.28月分 59.28月分 その他の加算措置 (退職時特昇 なし) 調整額 在職中の職責等による貢献度に基づく加算 (0～79,200)円 × 60ヶ月

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、前年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額である。

(3) 地域手当（平成19年4月1日現在） ※導入無し

支給実績（平成18年度決算）		0千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（平成18年度決算）		0円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度(支給率)
—	— %	— 人	— %

(4) 特殊勤務手当 (平成19年4月1日現在)

支給実績 (平成18年度決算)		51,715 千円	
うち病院関係職員分		49,428 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額 (平成18年度決算)		492,524 円	
うち病院関係職員分		969,177 円	
職員全体に占める手当支給職員の割合 (平成18年度)		22.1%	
手当の種類 (手当数)		11 種類	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
死体処理手当	一般行政職	行旅死亡人の処理業務	1体につき1,000円
犬猫死体処理手当	一般行政職	犬猫の死体処理業務	1体につき300円
夜間勤務手当	消防署勤務職員	夜間業務	1回につき350円
救急業務手当	消防署勤務職員	救急業務	1回につき150円
医師基本手当	病院及び診療所医師	医療業務	給料月額55/100
研究手当	病院及び診療所医師	病院での医療業務	常勤医師60万円以内 その他の医師30万円以内
往診手当	病院及び診療所医師・看護師	往診業務	医師1回につき100~600円 看護師1回につき50~150円
危険手当	病院及び診療所医師・看護師等	月20日以上	医師 5,000円 看護師 2,000円 診療放射線技師 2,000円
特別手当	葛川診療所勤務医師	葛川診療所での医療業務	給料月額80/100
夜間看護等手当	平川病院に勤務する 看護師・准看護師	深夜勤務	深夜勤務 6,800円 ※深夜勤務時間 4時間以上 3,300円 2~4時間 2,900円 2時間未満 2,000円 救急医療等 1,240円
特殊業務手当			
日当直特別手当	平川病院常勤医師	日当直に従事した場合	日直・当直 20,000円 半日直 10,000円
医師待機手当	平川病院外科常勤医師	当直医師が来るまで待機した場合	1回につき3,000円
特殊診療手当	平川病院常勤医師	特殊診療行為を実施した場合	固定点数×30/100以内
手術手当	平川病院外科医師 看護師	複雑な手術を実施した場合 手術に従事した看護師	固定点数×1~20/100以内
主任手当	副看護師長・主任	管理体制強化のため院内辞令 が発令された場合	副看護師長 月額6,000円 主任 月額2,000~3,000円

(5) 時間外勤務手当

支給実績 (平成18年度決算)	8,348 千円
職員1人当たり平均支給年額 (平成18年度決算)	18 千円
支給実績 (平成17年度決算)	19,565 千円
職員1人当たり平均支給年額 (平成17年度決算)	48 千円

(6) その他の手当 (平成19年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績(18年度)	支給職員1人当たり平均支給年額(18年度)
扶養手当	扶養親族のある職員に支給 ○配偶者：13,000円 ○配偶者以外 ・1人目 配偶者が扶養親族である：6,000円 配偶者が扶養親族でない：6,500円 配偶者が無い：11,000円 ・2人目以降：6,000円 ※15歳に達する日以後の最初の4月1日から22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子：5,000円加算	同		66,078千円	237,691円
通勤手当	通勤のため交通機関(バス等)を利用又は交通用具(自動車等)を利用する場合で、通勤距離が2km以上の場合に支給 ○交通機関利用者：月額55,000円限度 ○四輪自動車等：2,000円～24,500円	同		17,204千円	51,509円
住居手当	住宅を借り受け月額12,000円を超える家賃を支払っている職員又は世帯主として自ら所有する住宅に居住している職員に支給 ○自宅：新築・購入後5年間に限り月額2,500円 ○借家・借間：月額27,000円限度	同		17,616千円	73,400円
管理職手当	部長級及び課長級の職員に支給 部長級：給料月額×5/100 課長級：給料月額×3/100	異	国：棒給の特別調整額として支給	16,053千円	297,278円
寒冷地手当	毎年11月～3月までの各月の初日において、市内その他寒冷の地域に在勤する職員に支給 ○経過措置適用職員 ・世帯主/扶養親族3人以上：月額18,040円 /扶養親族1～2人：月額17,800円 /扶養親族なし：月額10,200円 ・その他/：月額7,360円 ○経過措置が適用されない職員 ・世帯主/扶養親族あり：月額17,800円 /扶養親族なし：月額10,200円 ・その他/：月額7,360円	同		34,275千円	74,028円
宿日直手当	宿日直勤務を命ぜられた職員に支給 ○宿日直1回につき4,200円～20,000円を支給 ※勤務1回が5時間未満の場合は、上記額に50/100を乗じて得た額	同		7,323千円	12,205円
管理職特別勤務手当	職員が臨時又は緊急の必要その他の公務の運営の必要により週休日又は祝日法による休日等若しくは年末年始の休日等に勤務した場合に支給 ○管理職手当の支給率に応じ、1,000円～8,000円を支給	同		0千円	0円
単身赴任手当	公署を異にする異動等に伴い住居を移転し、やむを得ない事情により、同居していた配偶者と別居することとなった職員で、通勤することが通勤距離等を考慮して規則で定める基準に照らして困難であると認められるもののうち、単身で生活することを常況とする職員に支給 ○月額23,000円 ○配偶者の住居との間の交通距離区分に応じ、6,000円～45,000円を加算支給	同		0千円	0円

5 特別職の報酬等の状況（平成19年4月1日現在）

区 分		給 料 月 額 等	
給 料	市 長 役 助 入 役 収 入 役	758,000円	(参考) 類似団体における最高/最低額
		608,000円	995,000円/460,000円
		581,000円	750,000円/347,500円
			690,000円/535,500円
報 酬	議 長 副 議 長 議 員	298,000円	495,000円/274,000円
		266,000円	425,000円/234,000円
		(旧平賀町議員) 255,000円	400,000円/220,000円
		(旧尾上町議員) 215,000円	
		(旧碓ヶ関村議員) 213,000円	
期 末 手 当	市 長 役 助 入 役	3.35 月分	
	議 長 副 議 長 議 員	3.35 月分	
退 職 手 当	市 長 役 助 入 役 収 入 役	(算定方式)	(1期の手当額) (支給時期)
		758千円×在職月数×52/100	18,919,680円 任期毎
		608千円×在職月数×26.5/100	7,733,760円 任期毎
		581千円×在職月数×24/100	6,693,120円 任期毎

(注) 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期（4年＝48月）勤めた場合における退職手当の見込額である。

6 職員数の状況

(1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

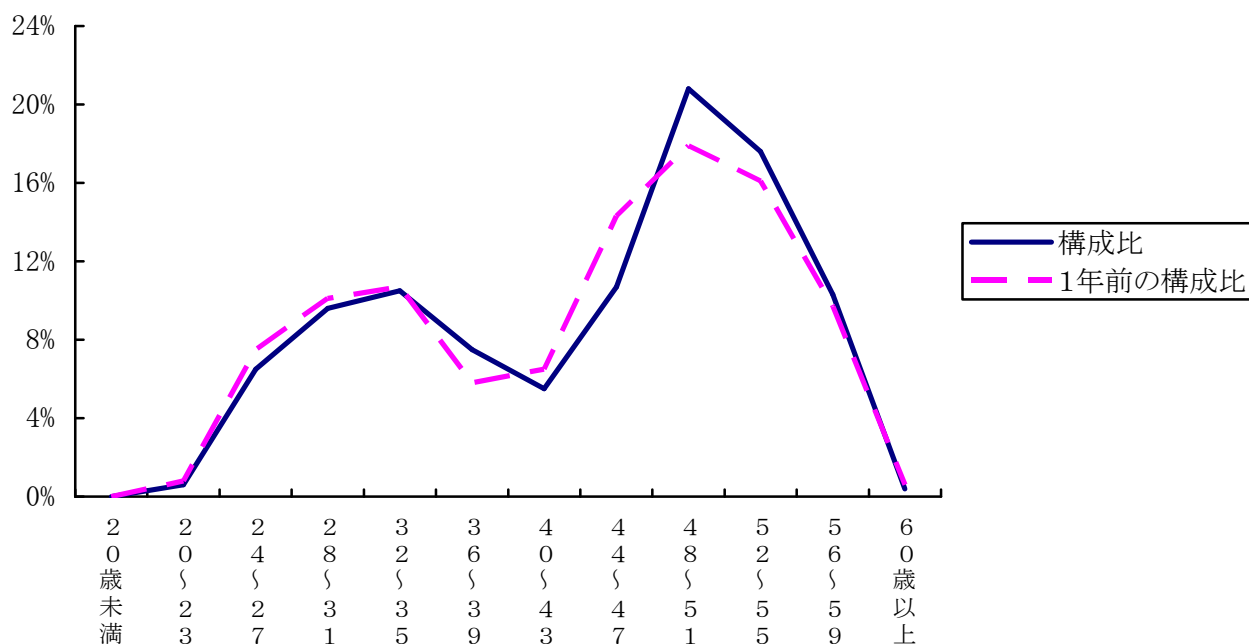
(各年4月1日現在)

部 門	区 分	職 員 数		対前年 増減数	主 な 増 減 理 由	
		平成19年	平成18年			
普通会計部門	一般行政部門	議 会	6	6	0	
		総 務	94	100	△6	事務の統廃合縮小による減員等
		税 務	26	26	0	
		労 働	1	1	0	
		農 林 水 産	27	28	△1	事務の統廃合縮小による減員
		商 工	8	8	0	
		土 木	26	26	0	
		民 生	39	44	△5	事務の統廃合縮小による減員等
		衛 生	20	21	△1	事務の統廃合縮小による減員
	計	247	260	△13	<参考> 人口1万人当たり職員数 70.19人 (類似団体の人口1万人当たり職員数 76.03人)	
	教 育 部 門	72	74	△2	事務の統廃合縮小による減員等	
	消 防 部 門	66	66	0		
	小 計	385	400	△15	<参考> 人口1万人当たり職員数 109.41人 (類似団体の人口1万人当たり職員数 103.28人)	
公営企業等 会計部門	病 院	58	64	△6	退職不補充による減員	
	水 道	8	7	1	経理業務増による増員	
	下 水 道	7	8	△1	事務の統廃合縮小による減員等	
	そ の 他	19	17	2	業務拡大による増員等	
	小 計	92	96	△4		
合 計		477 [507]	496 [507]	△19 []	<参考> 人口1万人当たり職員数 13.6人	

(注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。

2 []内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況 (平成19年4月1日現在)



区分	20歳未満	20歳～23歳	24歳～27歳	28歳～31歳	32歳～35歳	36歳～39歳	40歳～43歳	44歳～47歳	48歳～51歳	52歳～55歳	56歳～59歳	60歳以上	計
職員数	0人	3人	31人	46人	50人	36人	26人	51人	99人	84人	49人	2人	477人

(3) 定員管理の数値目標及び進捗状況

①平成17年4月1日～平成22年4月1日における定員管理の数値目標

平成17年4月1日 職員数	平成22年4月1日 職員数	純減数	純減率
513人	452人	61人	△11.9%

(参考) 平川市における定員管理の数値目標 (数・率)

計画期間		数値目標
始期	終期	
平成18年4月1日	平成22年3月31日	55人減 (△10.7%)

②定員管理の数値目標の年次別進捗状況（実績）の概要

（各年4月1日現在）

区 分 部 門		H17年 計画始期	H18年 1年目	H19年 2年目	H20年 3年目	H21年 4年目	H22年 5年目	H18～H22 計	(参考) 数値目標
一般行政	職員数	260	260	247				—	233
	増 減		0	△13				△13(48.1%)	△27
教 育	職員数	85	74	72				—	63
	増 減		△11	△2				△13(59.1%)	△22
消 防	職員数	66	66	66				—	64
	増 減		0	0				0(0%)	△2
公営企業 等 会 計	職員数	102	96	92				—	92
	増 減		△6	△4				△10(100%)	△10
計	職員数	513	496	477				—	452
	増 減		△17	△19				△36(59.0%)	△61

- (注) 1 計画期間は、平成18年～平成22年の5年間である。
 2 (%)内の数値は、数値目標に対する進捗率を示す。
 3 増減は、各年の欄にあつては対前年度比の職員増減数を、計の欄にあつては計画1年目以降現年までの職員増減数の累計を示す。

7 公営企業職員の状況

(1) 水道事業

①職員給与費の状況

ア 決算

区 分	総費用 A	純損益又は 実質収益	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 17年度の総費用 に占める職員給与費比率
18年度	619,404千円	14,761千円	41,401千円	6.7%	3.8%

区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考) 類似団体平均 一人当たり給与費
		給 料	職員手当	期末・ 勤勉手当	計 B		
18年度	人 6	千円 20,679	千円 2,177	千円 8,327	千円 31,183	千円 5,197	千円 6,896

- (注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は、平成19年3月31日現在の人数である。

イ 特記事項

②職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況（平成19年4月1日現在）

区分	平均年齢	基本給	平均月収額
平 川 市	37.8 歳	283,200 円	411,157 円
水道事業（公営企業会計）市町村平均	45.3 歳	375,666 円	572,943 円
事 業 者	歳		円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③職員の手当の状況

ア 職員の手当の状況

平 川 市	水道事業（公営企業会計市町村平均）
1人当たり平均支給額（平成18年度） 1,388千円	1人当たり平均支給額（平成18年度） 1,786千円
(平成17年度支給割合) 期末手当 3.0 月分 勤勉手当 1.45 月分 (1.6) 月分 (0.75) 月分	(平成17年度支給割合) 期末手当 3.0 月分 勤勉手当 1.45 月分 (1.6) 月分 (0.75) 月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置

(注) () 内は、再任用職員に係る支給割合である。

水道事業平均は、公表の準備が整い次第、更新いたします。

イ 退職手当（平成19年4月1日現在）

水道企業	事業平均
計算式 基本額 + 調整額 基本額 退職日の基本給月額 × 退職理由別・勤続年数別支給率 （支給率） 自己都合 勸奨・定年 勤続20年 23.50月分 30.55月分 勤続25年 33.50月分 41.34月分 勤続30年 41.50月分 50.70月分 最高限度額 59.28月分 59.28月分 その他の加算措置 （退職時特昇 なし） 調整額 在職中の職責等による貢献度に基づく加算 （0～41,700）円 × 60ヶ月 1人当たり平均支給額 自己都合 / 勸奨・定年 — 千円 / — 千円	計算式 基本額 + 調整額 基本額 退職日の基本給月額 × 退職理由別・勤続年数別支給率 （支給率） 自己都合 勸奨・定年 勤続20年 23.50月分 30.55月分 勤続25年 33.50月分 41.34月分 勤続30年 41.50月分 50.70月分 最高限度額 59.28月分 59.28月分 その他の加算措置 （退職時特昇 なし） 調整額 在職中の職責等による貢献度に基づく加算 （0～79,200）円 × 60ヶ月 1人当たり平均支給額 16,218千円

（注） 退職手当の1人当たり平均支給額は、前年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当（平成19年4月1日現在） ※導入無し

支給実績（平成18年度決算）		0千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（平成18年度決算）		0円	
支給対象地域	支給率	支給対象地域	支給率
—	— %	—	— %

エ 特殊勤務手当（平成19年4月1日現在）

支給実績（平成18年度決算）		0千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（平成18年度決算）		0円	
職員全体に占める手当支給職員の割合（平成18年度）		0%	
手当の種類（手当数）		0種類	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
—	—	—	—

オ 時間外勤務手当

支給実績（平成18年度決算）	301千円
職員1人当たり平均支給年額（平成18年度決算）	50千円
支給実績（平成17年度決算）	389千円
職員1人当たり平均支給年額（平成17年度決算）	64千円

（注） 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

カ その他の手当（平成19年4月1日現在）

手 当 名	内容及び支給単価	一般行政職の 制度との異同	一般行政職の制 度と異なる内容	支給実績 (18年度決算)	支給職員1人当 り平均支給年額 (18年度決算)
扶養手当	上記一般行政職（（6）その他の手当）と全て同様			762 千円	254,000 円
通勤手当				126 千円	42,000 円
住居手当				420 千円	105,000 円
管理職手当				0 千円	0 円
寒冷地手当				449 千円	74,834 円
宿日直手当				0 千円	0 円
管理職特別 勤務手当				0 千円	0 円
単身赴任手当				0 千円	0 円

④定員管理の数値目標及び進捗状況

→6（3）を参照

(2) 下水道事業

①職員給与費の状況

ア 決算

区 分	総費用 A	純損益又は 実質収益	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考) 17年度の総費用 に占める職員給与 費比率
18年度	257,496千円	53,925千円	6,958千円	2.7%	1.4%

区 分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考) 類似団体平均 一人当たり給与費 千円
		給 料	職員手当	期末・ 勤勉手当	計 B		
18年度	人 1	千円 3,425	千円 498	千円 1,369	千円 5,292	千円 5,292	千円 6,867

- (注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は、平成19年3月31日現在の人数である。

イ 特記事項

②職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況（平成19年4月1日現在）

区分	平均年齢	基本給	平均月収額
平 川 市	37.6 歳	287,000 円	411,706 円
下水道事業（公営企業会計）市町村平均	44.4 歳	373,334 円	571,401 円
事 業 者	歳		円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③職員の手当の状況

ア 職員の手当の状況

平 川 市	下水道事業（公営企業会計市町村平均）
1人当たり平均支給額（平成18年度） 1,369千円	1人当たり平均支給額（平成18年度） 1,767千円
(平成17年度支給割合) 期末手当 3.0 月分 (1.6) 月分 勤勉手当 1.45 月分 (0.75) 月分	(平成17年度支給割合) 期末手当 3.0 月分 (1.6) 月分 勤勉手当 1.45 月分 (0.75) 月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置

(注) () 内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当（平成19年4月1日現在）

水道企業	事業平均
計算式 基本額 + 調整額 基本額 退職日の基本給月額 × 退職理由別・勤続年数別支給率 （支給率） 自己都合 勸奨・定年 勤続20年 23.50月分 30.55月分 勤続25年 33.50月分 41.34月分 勤続30年 41.50月分 50.70月分 最高限度額 59.28月分 59.28月分 その他の加算措置 （退職時特昇 なし） 調整額 在職中の職責等による貢献度に基づく加算 （0～41,700）円 × 60ヶ月 1人当たり平均支給額 自己都合 / 勸奨・定年 — 千円 / — 千円	計算式 基本額 + 調整額 基本額 退職日の基本給月額 × 退職理由別・勤続年数別支給率 （支給率） 自己都合 勸奨・定年 勤続20年 23.50月分 30.55月分 勤続25年 33.50月分 41.34月分 勤続30年 41.50月分 50.70月分 最高限度額 59.28月分 59.28月分 その他の加算措置 （退職時特昇 なし） 調整額 在職中の職責等による貢献度に基づく加算 （0～79,200）円 × 60ヶ月 1人当たり平均支給額 13,310千円

（注） 退職手当の1人当たり平均支給額は、前年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当（平成19年4月1日現在） ※導入無し

支給実績（平成18年度決算）		0千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（平成18年度決算）		0円	
支給対象地域	支給率	支給対象地域	支給率
—	— %	—	— %

エ 特殊勤務手当（平成19年4月1日現在）

支給実績（平成18年度決算）		0千円	
支給職員1人当たり平均支給年額（平成18年度決算）		0円	
職員全体に占める手当支給職員の割合（平成18年度）		0%	
手当の種類（手当数）		0種類	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
—	—	—	—

オ 時間外勤務手当

支給実績（平成18年度決算）	222千円
職員1人当たり平均支給年額（平成18年度決算）	37千円
支給実績（平成17年度決算）	0千円
職員1人当たり平均支給年額（平成17年度決算）	0千円

（注） 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

カ その他の手当（平成19年4月1日現在）

手 当 名	内容及び支給単価	一般行政職の 制度との異同	一般行政職の制 度と異なる内容	支給実績 (18年度決算)	支給職員1人当 り平均支給年額 (18年度決算)
扶養手当	上記一般行政職（(6) その他の手当）と全て同様			78 千円	78,000 円
通勤手当				50 千円	49,200 円
住居手当				0 千円	0 円
管理職手当				0 千円	0 円
寒冷地手当				89 千円	17,800 円
宿日直手当				0 千円	0 円
管理職特別 勤務手当				0 千円	0 円
単身赴任手当				0 千円	0 円

④定員適正化計画の数値目標及び進捗状況

→6（3）を参照